

# 水道局 川井浄水場でPFI

横浜市水道局は、川井浄水場の再整備をPFI事業（事業名：川井浄水場再整備事業）として実施する。14日にはPFI法に基づく実施方針を公表した。再整

備後の浄水処理方式には膜ろ過を採用することとし、処理能力は17万2800立方メートル、区内最大の膜ろ過施設となる。今後は、来年2月に特定事業の選

定、5月の入札公表を経て、11月に落札者を決定する予定。事業者選定は総合評価方式で行う。一般競争入札で行うPFI事業で整備するの

は膜ろ過施設のほか、配水池（有効容量3万立方メートル）と排水処理施設など。事業方式は、民間事業者が施設

の設計・建設・工程管理を行い、同局に所有権を移管し、民間事業者が施設の維

持・運営を行う。PFI方式の導入により、施設のライフサイクルコストを削減し、市民負担の軽減を図る。この日は「災害対策等

の充実」について検討し、これまで5つの施策群をひと通りレビューしたことになる。年明けに開かれる次回

の発表」について検討し、これまで5つの施策群をひと通りレビューしたことになる。年明けに開かれる次回

## スペインでの小さな「コミュニティ」のための排水処理・国際会議に出席して



米国カリフォルニア大学 名誉教授 浅野 孝

前にもあるように、小さなコミュニティを対象としたもの。なぜ小さなコミュニティを対象とするのか。なぜ、今スペインが「主権するの」といふことが大事である。

11月11日から15日にかけてSmall Water of 小さなコミュニティのための排水処理に関する国際会議がスペインのセビリヤにて開催された。海外からの招聘者50名以上、会議参加者500人を超える極めて大きな会議であった。



基調講演する筆者

この会議はスペイン南部のアントルシア州政府、スペイン政府の環境省、海外

## 日本の経験と技術の発信を

スペイン国内、海外から招聘された講演者によるラウンドテーブルの内容は本会議の趣旨を反映したものであった。

基調講演では、WHOと関連のヨーロッパ事務所の代表が「水再利用を促進する」ことを目的として、

この2つの目的を達成するために、まず、技術的な側面に関する基調講演が行われ、私が「水再利用を促進する」ことを目的として、

あるスペイン向け、もしくはヨーロッパ向けの議論の背景には、これから2015年に向けて多くの投資が排水処理、再利用に行われ

あるスペイン向け、もしくはヨーロッパ向けの議論の背景には、これから2015年に向けて多くの投資が排水処理、再利用に行われ

あるスペイン向け、もしくはヨーロッパ向けの議論の背景には、これから2015年に向けて多くの投資が排水処理、再利用に行われ

努力を訴え、2008年の国連衛生年への取り組みが訴えられた。これがこの会議の一つの側面である。すなわち、スペインから世界へ、MDG達成のための発信をしようとするのが、本会議の目的である。

もう一つは、スペインの全ての州から水管理を担当する部長級の招聘される。各州の現状と将来像を論に加え、水と衛生に関する

現状とスペインの技術協力の現状が、アフリカ、中近東、ラテンアメリカを中心とした多くの招聘者により報告された。

アジア地域からは、北海道大学工学研究科の船水尚行教授がただ一人招聘され、日本の浄化槽をはじめとする家庭単位の処理技術の現状と新しい技術開発動向、ならびに海外への技術協力の方向性に関して講演した。この技術的な方法には学部部分が多い。

日本では、公共下水道による地域と合併浄化槽を導入する地域の線引き等、小さなコミュニティにおける排水管理については既に議論がある程度落着いている。この日本の経験がヨーロッパやその他の国々に発信される必要がある。その意味でも、この会議に日本からJICAや環境関連の企業が参加していなかったのは寂しい思いだった。



アジア地域からただ一人招聘された船水北大教授

## 拡大する欧州のマーケット

この分野に関してはスペインからの情報はほとんど日本には届いていないので、日本への情報発信として本会議の背景や目的を紹介したい。本会議はその名

水道ビジョン改訂へ向け 耐震化率100%は遠く

水道ビジョン改訂へ向け 耐震化率100%は遠く